

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0172000705), 法人名 (営利法人), 事業所名 (有限会社 グループホーム花 1階), 所在地 (小樽市最上2丁目19番9号), 自己評価作成日 (令和3年3月1日), 評価結果市町村受理日 (令和3年5月25日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の外出自粛の為、毎年継続して行っている地域交流(近隣の保育園や中学校、当ホームの敷地内でのフリーマーケット、町内会館での予防体操に参加、近隣のお寺の行事への参加)を図る事は出来ませんでした...

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\_kouhyou\_detail\_022\_kihon=true&JigyosyoCd=0172000705-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年3月19日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、天狗山に程近い高台の住宅街にある、木造2階建ての2ユニットである。職員は明るく、日々の生活で利用者に寄り添うケアを実践し、思いの把握に努めている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

【1階】 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に目の触れられるようにリビングや事務所に貼りだし管理者や職員が共有しながら実践につなげている。	理念を目に付く場所に掲示し、日々の申し送り時やカンファレンス時に再確認して、介護の実践に活かせるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園児、中学校へお互いに訪問したりホーム敷地内でのフリーマーケットに地域の方たちに参加して貰い、地域の一員として日常的に交流している。(去年はコロナで出来なかった)	通例では、地域代表の運営推進会議への参加や、災害時の相互の協力体制等、関係の継続に努めている。また、敷地での行事等、地域密着型サービスとして、地域にいかにか還元出来るかを実践している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域近隣の方より相談を受けたり他のサービス、アドバイスや紹介等行っている。また、保育園児の散歩道になっており折り紙畑を見に来たり休憩所となっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では地域包括、近隣の方、家族参加していただきホームでの出来事、サービスの状況、入居者の様子等報告する。話し合い、アドバイスして貰いサービス向上に活かしている。	通例では、家族、行政や町内会代表等の参加を得て定例で開催している。ヒヤリハット、事故報告の他、議題について積極的な意見交換をすることで、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	直接市町村の担当者に出向き分からない事は聞き実情やサービス状況などについて報告話し合いサービス向上に活かしている。	行政の窓口とは、定例の運営状況報告の他、メール・電話での相談や集団指導の場で随時指導を受けており、信頼性のある関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止委員会を設置し、指針を基に定例で開催している。また、職員にアンケート調査を行い、現状を検証し、結果を共有している。不適切なケアと思われる事は、その場でお互いが注意し合えるよう、拘束も抑制もない介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	見過ごすことの無いように注意を払い、職員同士、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を使用されている方がおり学ぶ機会があり必要に応じて話が出来きそれらを活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解・納得して頂いており不安や疑問があった時はすぐに対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会簿にて意見、要望欄を設け玄関内に意見箱を設置している。面会時には必ず意見や困ったこと要望がないか聞きそれらを運営に反映している。	通例では主に電話や来訪時に家族の意見、要望を聞き取り、運営に反映している。現在は写真入りの個別便りの他、メールやリモート面会の準備等、多様な情報交換の場を設定し、意見を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案を常に聞ける状態であって管理者は反映している	定例の会議や申し送り時に、職員からの提案や意見を聞き取り、ケア手法やプランに取り入れている。管理者との個別面談も、随時行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価にて評価及び日常の勤務状態ね努力実績に応じた評価を行い手当など支給するなどやりがい向上心を持って働けるような環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者やリーダーは職員一人ひとりの力量を把握し働きながらトレーニングしていく事を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	不定期ではあるが外部の研修がある時に職員に案内し参加を促し同業者との交流を通じサービスの質向上させていく取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の様子見なが本人が困っている事、不安な事思っている事等に耳を傾けながら本人が安心して過ごせるよう良い関係を築ける様に務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事、不安な事、要望がある時しっかりと耳を傾けながら良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要とする他のサービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人の出来る力を信じて有意義に発揮できるように促し役割を持って行えるように暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは常に情報交換しており本人と家族の絆を大切にしながら、本人を支えていく良い関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の通い慣れた美容院や病院、等行けるよう支援に努めている。	通例では、希望する馴染みの場所への外出は職員同行、または家族の協力を得ながら、支援している。現状では電話やお便りの頻度を上げ、関係が断たれないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し孤立せずに利用者同士が関わり合いを持てるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、家族や病院から連絡があった場合これまでの関係性を大切にしながら必要に応じ相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思い希望、意向の把握に努め本人本位に検討している。	会話や表情から思いや希望を把握し、職員間で検討している。家族からも情報を得て、定期的なアセスメントを行い、本人情報の収集に努めている。	本人は最後の時間をどこで過ごしたいのか等の最終段階に関して、具体的な思いを聞き取り・記録し、より本人本位の介護となるように期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や元ケアマネより情報をもらいサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身状態等は申し送りや生活記録、申し送りシートにて職員どおしが共有し現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング時、気づいた事、本人の日々の様子等に変化を職員で話し合い計画の見直しをしている。また、本人、家族の意見やアイデアを反映し現状に即した介護計画を作成している。	職員が必要と感じた事がケアプラン、という考えを基に、職員相互で話し合った日々のモニタリング結果を総合的に検討して、介護計画を作成している。また、必要に応じて随時見直しを行い、現状に即した計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を元に日々の様気づきを個別記録に記入し変化があった時には職員間で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院、買い物、入院の手続きや同行代行支援更新手続き等その時に生まれるニーズに対応し柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のお寺での豆まきに参加させていただいたり地域での予防体操に参加し本人の心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診職員と看護師が必ず同行している。日常の様子を適切に主治医に状況報告を伝え良い関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医は本人の意向に沿って、職員・看護師同行で受診支援している。協力医療機関との連携体制や看護師の配置等、職員は安心してケアに専念している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員と看護師と常に情報や気づきを伝え相談しながら利用者の状態把握し適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際医師、看護師、医療連携室と密に連絡取り様子観察に行くなどし状況把握するように努めている。病院関係者との情報交換相談、助言をいただきホームで安心して生活できるよう良い関係作りしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでい	利用契約時「重度化した場合の対応に係る方針」を家族に説明し同意を得ている。看取り支援は行って居ない為、実際に重度化した場合主治医がホームの看護が困難と判断した場合に入院または転移院できるよう調整する。	契約時に指針を文書で説明し、同意を得ている。また状況に応じて、医療機関・家族・事業所で話し合い、本人や家族の意向に沿って介護できるよう、取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨年は消防隊員に急変や事故発生時に備えて、救命救急講習研修を行って頂いたが、コロナ感染予防の為、現在は消防署員の派遣は行っておらず、内部研修で救命に必要な応急手当方法などを学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回は必ず、日中・夜間を想定した避難消防訓練を実施している。コロナ過の外出自粛前までは全ての訓練時に消防署職員の派遣と火災通報装置に登録されている地域住民にも参加をお願いしていたが今年は参加を控えて頂いた。	避難訓練は消防の協力を得ながら、年2回、自然災害想定も含め行っている。通例では、地域町内会との協力体制も含め、具体的な設定を行い、改善に繋げている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格尊厳しプライバシーをそこねない言葉づかい口調や接する態度には十分気を付け対応している。	職員は主に接遇について、具体例を挙げながら日々注意し、相互にチェックすることで、尊厳ある対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思い、希望、やりたいことの自己決定出来るよう常に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのスペースを大切にどのように過ごしたいのかを知り、職員の決まりや都合を優先することなく、本人の希望、本人の思いを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きな服を選び着て貰っている。また、季節にあった服のアドバイスの支援もしている。訪問美容院二か月に一度着ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度の材料切り、味見、盛り付け、洗いなど職員といっしょに行う。「昔はよくやっていた」と洗いも一緒にやっている。	盛り付けや材料の下準備等、体調や体力に合わせて好きな事を手伝ってもらい、食事が楽しみある時間となるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録に食べる量、摂取量を記入し把握している。水分不足時に自分の好きな飲み物を用意飲んで貰うよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがいをを行い義歯洗浄にて清潔保持に努めている。必要に応じて訪問歯科、口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンを活かして声掛け誘導、見守り行い、清潔保持自立に向けた支援を行っている。	トイレでの排泄を基本として、職員間で一人ひとりのサインを共有、見逃さないように注意し、無理のない自然な排泄となるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操の時間を設け体を動かすよう働きかけ乳酸菌飲料やヨーグルト等で腸内環境をよくするなど自然排便を促す様に取り込んでいる。また、必要に応じて医師に相談し予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調の変化、血圧、熱等把握し希望やタイミングに合わせて入浴を楽しんでもらっている。	声かけに工夫しながら、体調や状況に応じた弾力的な支援を行っている。同性介助や時間帯も出来る限り利用者の希望を取り入れ、楽しい入浴となるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活週カンやその時々状況に応じて休息したり、安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬手帳や薬の説明書を個人のファイルに閉じてあり使用方法や用意理解と確認し服薬に努めている。また、薬局にも確認する事もある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力を配慮し生活リハビリを兼ねて毎食後の後片付けを役割分担して行っている。また、外出、外食、季節のレク行事を多く取り入れ気分転換を図れるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や地域の人々と協力しながらは出来ていないが職員で出来る限り一人ひとりの希望に添えられるように季節に合わせた外出先を選び外出支援をしている。また、全員での外出は困難である為外食、買い物以外にも近所のお寺さん園内散歩、畑に出てのお手伝いをして貰っている。	通例では、全体行事への参加の他、個別に声がけし、日課として出歩くように努め、近隣へ買い物に出かける等、閉じこもらない介護を実践している。また、遠方への外出等も、家族の協力を得ながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にお金が無くなったなどの問題が発生しても責任を負わない事を家族には理解同意して頂いた上で自己管理が可能な入居者に限りお金を所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者自ら家族へ電話を掛ける事は出来るが自ら電話かける人はいない。家族からの電話があった場合はプライバシーに配慮して居室にて話して貰っている。また、手紙やはがきを書く方がおりポストに入れに行きます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓は大きく季節を感じられリビングや壁、廊下に職員や入居者の手作りの飾り付けをしている。リビングでは演歌、ジャズ、童謡などのCDを常に流れている。また、冬季には加湿器等置き、各居室には濡れタオル等干し湿度対策で乾燥を防いでいる。	リビングをはじめ、共用部は広い間取りであり、温・湿度が適切に保たれている。全体的に季節感を大切に飾り付けがなされ、落ち着いて生活できるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由にリビングへ来ては気の合った利用者同士で話をしたり本を見たり、思い思いに過ごしている。また、憩いの場でソファに座りテレビを見たりゆっくり過ごせるような工夫をしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、居室に馴染みのある使い慣れた家具や仏壇や写真など持って来ていただき居心地たり家族と相談しながら本人が居心地よく過ごせる様な工夫をしている。	居室には長年使用していた家具が持ち込まれ、壁面には家族の写真や飾りつけ等、自分の部屋として認識出来、違和感なく過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に表札、トイレには見やすい様に大きな文字で分かりやすい様に張り紙紙をしている。トイレ内、廊下全てに手すりが備え付けられており安全に移動でき自立した生活が送れるように工夫している。		